

令和6年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和7年3月8日	CHAmmiT参加者（教職員含む）、学生、FD委員、学務担当、教務課員等の計5名で、学部提案書について1時間程度、実現に向けて意見交換を行った。

2 通信教育部から学生へのメッセージ

通信教育部には、大学卒業資格や、教職、学芸員、司書教諭などの資格取得を可能とするカリキュラムや、深い教養と実践的な知識を獲得できる科目が開講され、学生一人ひとりの状況に合わせた選択が可能な、スクーリングやインターネットを柔軟に利用できる学修方法と単位修得方法が採用されています。基本となる通信学修（レポート＋科目修得試験）のみならず、様々な形態のスクーリングを開講し、令和6年度からは「Sメディア」という新たな形態のメディアを利用して行う授業も開設します。通信教育部の多様な学び方をフルに活用し、学生一人ひとりが、自ら考え・学び・道を拓く力を身に付け、それぞれの入学目的を達成されることを心から願っています。
--

3 学部提案書の対応について

「学部」に望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<他学科科目の開講> 他学科で開講されている授業を自分の学科でも受けられるようにしてほしい。また現在もし行われているようであれば、そのような時間を増やしてほしい。	○			通信教育部は4学部8学科専攻で構成されており、他学科科目を範囲内で受講することができる。学生との話し合いでは、CHAmmiT当日の他学部学生と混合でディスカッションしていた際に共通の話題としてあげられたとのことであった。前述のようにすでに開講されていて受講もできるが、その幅の広さや授業科目数について（通信教育課程である故に）限界はある。
企業で活躍している人、あるいは人々の話を聞けるような授業もしくは講演会などがあってほしい。		○		ゲストスピーカーを迎える形で実施されている授業はいくつかある。また授業のみならず講演会とも記されているので、こういったニーズがあることは意識しておきたい。 なお、通信教育部は地方に学習センターを配置し、OBを中心とする指導員に相談する体制を敷いている。また地方スクーリングでは通信教育部校友会と連携して交流の場を設定している。理事長・学長セレクト講座などへの参加も奨励している。
体験型の授業がほしい。		○		アクティブ・ラーニング形式の授業の導入について、授業担当者への委嘱時に手引・説明会などでも奨励している。集中スクーリングで地域調査を実施する授業など実践の事例はある。 ただし、大学として地域と連携して町興しといった形態では実施されていない。
古い教材をアップデートしてほしい。		○		教材が現在の社会状況からみて古くならないように更新していくことは、従前からの課題として受け止めている。通信学修の開発教材では執筆・刊行のペースが追いつかないこともあり得るため、新しい市販本への切り替えも可能としている。メディア教材の更新についても新形態のSメディア授業は求められる適時性に対応できている。この「適時性」（教材の更新）については授業担当者にも促している。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。